八戸ポートアイランド連絡橋（仮称）の見学記

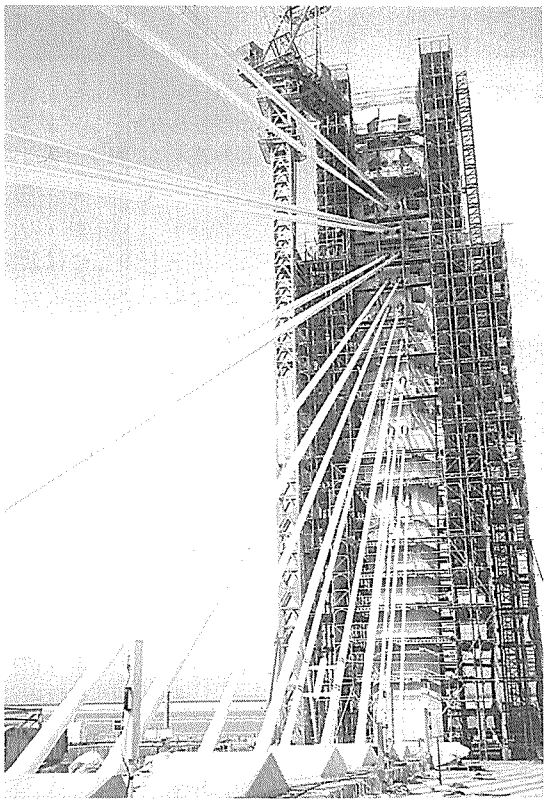
編集委員会

去る7月7日，七夕の日に，本誌編集委員会による八戸ポートアイランド連絡橋（仮称）の現場見学会が開催された。2年ぶりの見学会とあって出席率も良く，山﨑編集委員長をはじめとする21名の編集委員が参加し大人数の見学会となった。

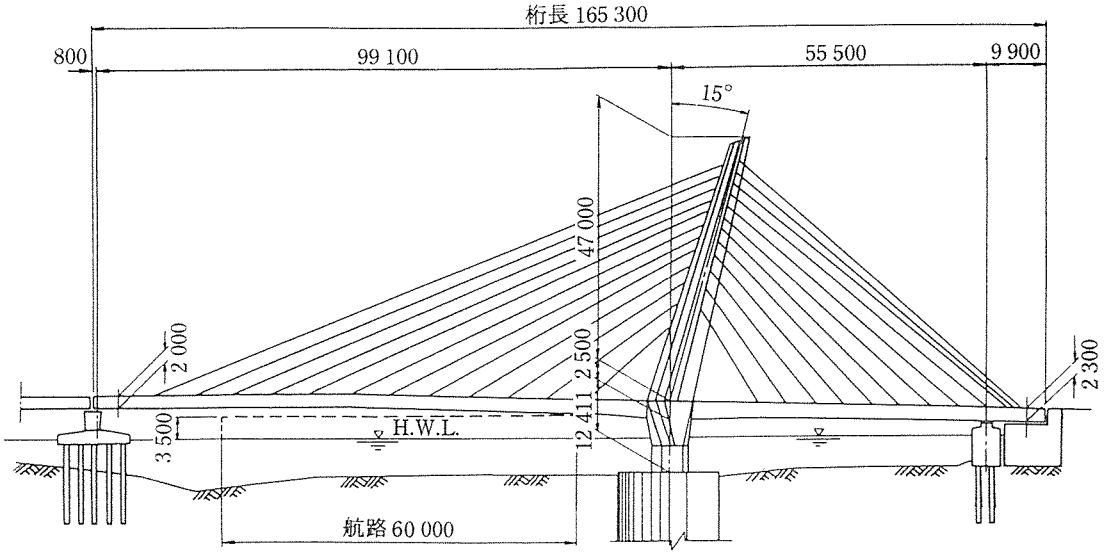
当日，東京を出発するときは蒸し暑く，上着を着てきたのを後悔したが，現地に着くと気温がなんと15℃と，とても同じ日本とは思われなかった。梅雨時期で西から天候が崩れていたものの，その日はどうにか持ちこたえるという好運な一日であった。

架橋地点の八戸港は東北地方の主要港のひとつに挙げられ，将来その重要性がますます増大することが予想されている。現在，それに対する整備工事として，既存の防波堤を利用した埋立による人工島“ポートアイランド”の建設工事が進められている。本橋は，このポートアイランドと臨港地区を結ぶ2径間連続PC斜張橋（図−1）であり，将来，八戸のランドマークとなるだろう。

見学会は，最初，橋梁看板前でかわいい案内嬢による概略説明を受け，その後現地ミーティングルームにて担当主任技術者から詳しい説明が行われ，質疑応答が交わされた。最近は，建設現場も徐々に変化していると感じさせられる。案内嬢による説明もそうだが，現場での案



写真−1　施工中の主塔



図−1　側　面　図

写真−2　案内嬢による説明風景

内はビデオ上映，ショールームの設置等，“見学者にやさしい説明”が行われており，我々にとっては実にありがたいことである。

技術的な問題点とその対処方法について種々説明を受け，生の意見・苦労話を聞くことができ，参考となる点が多数あった。日本で初めてのリオ・エブロ橋タイプの斜張橋であり，それに起因する構造上の諸課題に加え，地域的要因から発生する課題（塩害，凍害），さらに景観を考慮したデザインに対する課題（形状，色彩，テクスチャー等）について，現地において十分な検討がなされている。さらに今後，問題となるのは海猫の糞害であると聞かされ，地域特有の悩みは現地を訪れないとなかなか分かるものではない，と痛感させられた。余談ではあるが，この付近は海猫の繁殖地として有名で，天然記念物に指定されているそうだ。現場ミーティングルームからものんびりとした海猫の群れが幾つも見られた。

工事は順調に進められており，長径間側は第 20 ブロック目が前日にコンクリート打設され，養生中であった。短径間側は，バックステーケーブルが定着される最終ブロックの配筋が行われているところで，定着部付近の複雑な鋼材配置状況を見ることができた。この後，5 ブロック分の張出し施工（斜材ケーブル 3 段）と最終の吊支保施工を行い，本年 10 月末に橋体が完成する予定である。

最後に，工事説明，現場案内に労を頂きました，五洋・東洋・ドーピー・寺下特定建設工事共同企業体の方々に心よりお礼申し上げます。

［文責：野田行衛（川田建設(株)開発部技術開発課）］